

崇烈

鹿兒島縣於鹵海地最廣人最勇而西鄉隆盛名望蓋世
至海內人士候其進退以為安危明治十年二月隆盛反
圍熊本城

天皇震怒發兵討之熾仁任總督之責陸軍中將山縣有
朋海軍中將川村純義為參軍賊分兵扼植木山鹿兩道
進入高瀨廿七日我軍擊取高瀨粵四日拔木葉賊還據
田原阪之險而熊本圍益密援路皆絕夫田原之為地兩
崖壁立徑路崎嶇賊悉精銳築堅壘咆哮出沒有如虎狼
要害異形攻守殊勢而我軍殊死戰不舍晝夜十有七日
遂拔之死傷四千餘人此役也鏖戰前後數百而未有如
田原阪之劇也苟此阪而不拔使賊破南關而北則四方
不逞之徒必乘豐而起禍不可測而不使其至此遂速致
討滅者實由此一捷嗚呼死者之功大矣而不及見焉痛
哉因建碑阪上以記之蓋所以勸獎忠烈也

明治十三年十月

陸軍大將二品大勲位熾仁親王撰文竝篆額

陸軍省六等出仕從六位勲五等秋月新太郎書

鹿兒島県は、西海に於いて地最も広く、人最も勇なり。西郷隆盛の名望は世を益ふ。海内の人士は其の進退を候い、以て安危と爲す。明治十年二月隆盛反し熊本城を圍む。

天皇震怒、兵を發して之を討つ。熾仁、総督の責に任ず。陸軍中将山縣有朋、海軍中将川村純義參軍となす。賊は兵を分かち、植木山鹿の兩道を扼し、進んで高瀬に入る。廿七日我軍高瀬を撃ち取る。四日木葉を抜く。賊退いて田原坂の險に據る。熊本の圍み益々密にして、援路皆絶ゆ。夫れ田原の地たるや、兩崖壁立徑路崎嶇たり。賊悉く精銳にして堅壘を築き、咆哮出沒虎狼の如く有り。要害形を異にし、攻守勢いを殊にす。我軍、殊に死戦昼夜をすてず、十有七日遂に之を抜く。死傷四千余人、この役たるや鏖戦前後數百、未だ田原坂の劇の如きはあらざるなり。苟もこの坂にして抜けず、賊をして南関を破り北せしめば、即ち四方不逞の徒必ず隙に乗じて起ち、禍ひ測るべからず。其れを此に至ら使めず、遂に速やかに討滅に致らしむるものは、實に此の一捷に由る。嗚呼死者の功大なり。焉見るに及ばず、痛ましい哉。因つて碑を阪上に建て、以て之を記す。蓋し忠烈を勸奨する所以なり。

明治十三年十月

陸軍大将二品大勲位 熾仁親王撰文竝篆額

陸軍省六等出仕從六位勲五等 秋月新太郎書

崇烈碑 碑文読み下し文

鹿兒島県は九州では土地は最も広く、人は最も勇猛である。西郷隆盛の名望は世に知れわたつていた。国内の士族はその進退をうかがい、自分の居所を考えていた。明治十年二月、隆盛は反乱をおこし、熊本城を圍んだ。

天皇は大変に怒りになられ、軍隊にこれを討たせられた。熾仁親王が征討総督で、陸軍中将山縣有朋、海軍中将川村純義を參軍とした。薩摩軍は兵を分け、植木、山鹿の兩道を抑え、進軍し高瀬に入った。二十七日、政府軍は高瀬を占領。三月四日には木葉も占領した。薩摩軍は退却し、田原坂の要地に陣を築いた。熊本城の圍みは益々固く、援軍の路も皆絶たれた。この田原坂の地は兩側が壁のように立ち、山路がけわしい所である。薩摩軍は全て精銳で、しかも堅固な陣地を築き、虎や狼が吠えたけるが如く襲いかかつてくる。攻めるに難く、守るに易い地形の要地での戦いは尋常ではなかった。こうして我軍は死戦、昼夜を問わず十七日間に及び、ついに田原坂を落とした。死傷四人あまり、西南戦争において數百の激戦があったが、田原坂のような激戦は他にはなかった。もしもこの坂を抜くことができず、薩摩軍に南関を破り北上させてしまったならば、政府に不満を持つ者たちが必ず隙をみて立ち上がり、禍いは測り知れなかっただろう。しかしそんなことにならず、速やかに討滅できたのは、實に田原坂の戦いの勝利による。

ああ、死者の功績は大きく、そのままにしておけない痛ましいことである。そこで碑を田原坂の阪上に建て、このことを記す。忠義をつくすよう勸奨するものである。

明治十三年十月

陸軍大将二品大勲位 熾仁親王撰文竝篆額

陸軍省六等出仕從六位勲五等 秋月新太郎書

崇烈碑 碑文訳文

引用